

1 つぎの文章を読んで問題に答えましょう。

森で切りかぶの丸い面を見ると、しまもようがあります。これが年輪です。木は一年に一度、うすい色とこい色のわっかを作ります。春と初夏は水が多くてうすい色が広がり、夏の終わりから秋は水がへってこい色でしまる——うすい＋こいで一年分です。

年輪の太さは、その年のようすを教えます。雨が多く気温がほよい年は太く、かわいた年や寒い年は細い。山火事の年は黒いすじ、虫が入った年は小さなきずやゆがみが出ることも。川ぞいなどかたむいた土では、片方が太く反対が細くなります。木は体の中に、森で起きたことを書きのこしているのです。

年輪で分かることの一つは木の年れいです。中心から外までのわっかを数えればおよそが分かります。ただ、きびしい年はうすすぎて見えにくいこともあるので、一本だけで決めず、近くの何本かを見くらべるのが大切です。太い年・細い年のならびを合わせれば、読みにくい年もたしかめられます。

また、年輪は天気の手がかりにもなります。太い年が続けば雨が多く森がしげった時期、細い年が続けばかわきの時期と考えられます。川のきろくや、むかしの新聞の雨・雪の話と合わせると、森と人のくらしのつながりが見えてきます。

建てものの年代しらべにも年輪は利用されています。古い家や寺・神社の柱の年輪のならびを、森の木のならびと見くらべて、「この木がいつごろ山で育ったか」を合わせます。一本より多く合わせるほど、年の見まちがいがへります。

さらに年輪は自然さいがいの手がかりにもなり、山の斜面の木で、同じ年に片方だけ太い年輪が多ければ、その年に土や石が大きく動いたのかもしれない。川ぞいで太い年が続けば水が多い時期、細い年が続けば水が少ない時期と読めます。むかしを知り、これからのそなえを考える材料です。

気候のちがいで年輪への影響はどうでしょうか。北や高い山では気温が主な力いで、あたたかい年は太く、寒い年は細い。海の近くは風や雨の回数もひびきます。年中あたたかく雨がが多い地域は年の区切りがはっきりせず年輪が見えにくい木もありますが、雨の季節とかわく季節が分かれる国では見えやすいことが多い。四季のある日本は、年輪がよく読める国の一つです。

森を守る考えにも役立ち、長く細い年が多い森は、土がうすい、木がこみ合い光が足りない、などの問題がかくれていることがあります。ほどよく太い年が続く森は、木の間のひろさや水の道がととのっているのかもしれない。年輪は、手入れを考える「声」でもあるのです。

ただし、年輪は何でも教えるわけではありません。もともとゆっくり育つ木は細く、早く育つ木は太くなりがち。同じ年でも日当たりや土のちがいで広さは変わります。だから年輪だけで決めつけず、場所やほかの木、ほかの手がかりと合わせて考えることが大切です。

森の木の中では、今日も新しいわっかが生まれています。一本の木には一本の時間、森にはたくさんの時間が重なっています。今度森へ行ったら、年輪から雨の年、風の年、人のくらしとつながる年を思えがいてみてください。木から読む時間は、静かに森の歴史を語りつづけています。



(1) 本文で、年輪が細くなる主な理由として書かれているものを二つ選びなさい。

ア かわき イ 山火事 ウ 雨が多い エ 寒さ

① () ② ()

(2) 次の表は、ある森で同じ年に川ぞいと、山の上の木から得られた年輪の幅(mm)をまとめたものです。これにもとづいて答えなさい。

場所	2018年	2019年	2020年
川ぞい	2.8	3.0	1.2
山の上	1.3	1.4	0.6

① 2020年について、本文の説明と最も合う見方を一つ選びなさい。

ア 雨が多く、どちらも太くなつた
 イ かわきが強く、どちらも細くなつた
 ウ 気温が高く、山の上だけ細くなつた

答え ()

② 表と本文の内容が一致する説明を一つ選びなさい。

ア 川ぞいは水がえられるため、一般に山の上より太くなりやすい
 イ 山の上は日当たりが良いので、年中もっと太くなる
 ウ 年輪の幅は場所に関係なく、毎年同じになる

答え ()

(3) 次のの「ア」の「分野」と①②③の「年輪の生かし方」を最もふさわしい組み合わせになるように選びなさい。

ア 建てものの年代しらべ ()
 イ 自然さいがいの手がかり ()
 ウ 気候のちがい ()

① 片側だけ太い年が多い↓土砂の動き等をよむ
 ② 柱の年輪のならびを森の木とくらべ年代を合わせ
 ③ 北や高い山では気温がカギ、四季がある日本は読める

(4) 本文中から、年輪だけで結論にせず他の手がかりと合わせて考えることを述べた一文を、そのまま抜き出して書きなさい。



(5) 本文の中心的な考えとして最も適切なものをつ選びなさい。

ア 年輪は木の年れいだけを知るための記録である。
 イ 年輪は気候差で見えにくく、日本では役立たない。
 ウ 年輪は天気・場所・災害など森の歴史を読み解く手がかりになる。
 エ 年輪は想像が大切で、データを集める必要はない。

答え ()

(1) 本文で、年輪が細くなる主な理由として書かれているものを二つ選びなさい。

ア かわき イ 山火事 ウ 雨が多い エ 寒さ

① (ア) ② (エ)

(2) 次の表は、ある森で同じ年に川ぞいと、山の上の木から得られた年輪の幅(mm)をまとめたものです。これにもとづいて答えなさい。

場所	2018年	2019年	2020年
川ぞい	2.8	3.0	1.2
山の上	1.3	1.4	0.6

① 2020年について、本文の説明と最も合う見方を一つ選びなさい。

ア 雨が多く、どちらも太くなつた
イ かわきが強く、どちらも細くなった
ウ 気温が高く、山の上だけ細くなった

答え (イ)

② 表と本文の内容が一致する説明を一つ選びなさい。

ア 川ぞいは水がえられるため、一般に山の上より太くなりやすい
イ 山の上は日当たりが良いので、年中もっと太くなる
ウ 年輪の幅は場所に関係なく、毎年同じになる

答え (ア)

(3) 次ののア～ウの「分野」と①～③の「年輪の生かし方」を最もふさわしい組み合わせになるように選びなさい。

ア 建てものの年代しらべ (②)
イ 自然さいがいの手がかり (①)
ウ 気候のちがい (③)

① 片側だけ太い年が多い↓土砂の動き等をよむ
② 柱の年輪のならびを森の木とくらべ年代を合わせ
③ 北や高い山では気温がカギ、四季がある日本は読める

(4) 本文中から、年輪だけで結論にせず他の手がかりと合わせて考えることを述べた一文を、そのまま抜き出して書きなさい。

だから年輪だけで決めつけず、場所やほかの木、ほかの手がかりと合わせて考えることが大切です。

(5) 本文の中心的な考えとして最も適切なものの一つを選びなさい。

ア 年輪は木の年れいだけを知るための記録である。
イ 年輪は気候差で見えにくく、日本では役立たない。
ウ 年輪は天気・場所・災害など森の歴史を読み解く手がかりになる。
エ 年輪は想像が大切で、データを集める必要はない。

答え (ウ)